

# テストWG ポジションペーパー

岩田靖史  
日本ナレッジ株式会社  
iwata@know-net.co.jp

## 1. 自己紹介

1990年代中頃 Linux に触れたことをきっかけにインターネット/オープンソース分野に進出(?)、サーバーシステムの管理やネットワークアプリケーションの開発の仕事に携わり、いくつかのオープンソースアプリケーションの開発にも関わってきました。

1999年頃プログラミング言語 Python の存在を知りそのシンプルさと可読性の高さに感動、以来仕事、趣味を問わずメインの言語として使い続けています。

2008年から日本ナレッジに在籍、アプリケーション開発の傍ら、機能テスト等のオープンソースツールを社内ソフトウェア検証現場へ導入するための事前検証、教育、ツールサポートなどを仕事としています。

## 2. 第三者検証とオープンソースツール

弊社は「第三者検証」を主たる業務としていますが、これは「テスト業務を他社から請け負う」仕事です。つまりテスト設計の書式からテストの手法やツールまで、すべて基本的には発注元の方針に従って実施する立場にあります。

しかし今後は単に予め決まったパターンの検証業務をこなすだけでなく、検証の手法やツールを含めた提案をしていかなければならないと考えています。

ソフトウェアテストツールを例にとると、ユニットテストは多くの言語で xUnit として標準装備されるようになり、当たり前ものとして認識されつつありますが、機能テストツールになると、まだ「標準」不在の状況が続いています。

市販の機能テストツールは何れも高価で、

現場のテスターすべてが使えるように配備することは事実上困難です。このためツールを使いこなせる人材も育たず、ツールの利用自体が進まない悪循環に陥っています。

オープンソースのツールをテストに生かせれば、導入コストを大幅に下げることが可能となり、検証業務全体の質、効率のアップができるのではないかと模索しています。

## 3. 議論したい内容

(1) 普段のプロジェクト(のテスト)で悩みが多いものの一つに、進捗遅延、多発する変更要求などのしわ寄せが影響して計画通りの(本来必要な)テストが行えない局面で、何のテストをどこまで実施していくべきかを決めて対応しなければならない、というものがあると思います。

このことを検討し、決定していく過程で、どのような情報を拠り所にして、どのように決めるのが適切なのか、その時の前提条件は何か、注意すべき事項は何なのか、等を議論してみたいです。

→リスクベーステストなどを視野に入れての話です。

(もちろんそれに限りません)

(2) 「網羅とピンポイントの両面を兼ね備えた”本来必要なテスト”とはどんなものか／それはどのように導き出すのがよいのか」についても議論してみたいです。

「すべてのことをテスト出来ないんだから」までは誰も言うのですが、「(そうなのだ

から)どこを、どの程度テストするのがよいのかを、根拠に基づき導き出す」のではなく「(そうなのだから)思いついたところをやればよい／期日が来るまで一生懸命やればよい」的なテストを実施している現場も多いです。

そういう現場に「テストは網羅とピンポイントが大事だ」と言っても解決にはなりません。

簡単な話ではありませんが、ソフトウェアの品質保証の観点から「本来必要なテストを導き出すための具体的な段取りやノウハウ」を議論して、その結果が、「(そうなのだから)思いついたところをやればよい／期日が来るまで一生懸命やればよい」としか考えられない実務の現場に、「そういうことなんだ!」と納得して、思考と行動を変えるきっかけになってもらいたいと思います。

#### 4. WSに期待すること

めったにない機会ですので、同じドメインに精通されているみなさんと意見交換や議論ができること、そして新しい考え方、自分にはない思考、ノウハウを獲得できるとうれいなと思っています。

よろしくおねがいします。